

【2月 如月(きさらぎ)】

1年で一番寒さが厳しい月ですが、旧暦ではこの月を境に春がやってきます。季節の分かれ目である節分には、新しい春の始まりに、「豆まき」をして鬼(人の力の及ばないマイナスの力や出来事は当時すべて「鬼の仕業だ」と考えられていた)を払い、恵方巻(その年の福のやってくる方角を向いて食べる巻きずし)を食べて福を呼び込むなどの習わしがあります。

<2月の行事>

3日ごろ 節分

4日ごろ 立春

11日 建国記念の日

節分

節分の日には、豆まきをしたり、恵方巻を食べたりするのは馴染みがあると思いますが、そもそもなぜ「節分」と呼ばれるようになったのかご存知ですか？

節の分かれ目、つまり「季節の分かれ目」を表し、本来は立春・立夏・立秋・立冬の前日を節分と呼んでいました。現在は旧暦の正月に近い立春の前日をもっとも重要とされており、現在では立春(2月4日ごろ)の前日2月3日ごろを節分というようになりました。そのため、正月と同じような祝いの行事が行われます。節分には、豆まき・追儼などの行事が行われます。



豆まき

炒った大豆を一升枡に入れて神棚に備え、「福は内、鬼は外」と唱えながら豆をまきます。節分の夜に行われ、年男や戸主が豆をまきます。まず神棚から、次に各部屋や出入口でまき、すべてまき終わると悪いものが入ってこないように急いで戸を閉めます。

豆まきが終わると、「年の豆」と言って、家族がそれぞれ自分の年齢の数、または年齢に1つ加えた数だけ豆を食べ、1年の無病息災を祈念します。また、豆を煮だした福茶を飲むこともあります。

追儼

追儼は宮中の年中行事の1つでした。鬼を払う役を方相氏といい、四つ目の面をつけて、矛と盾を持ち、大声をあげて大内裏を回りました。のちに、鬼を払う役であった方相氏が異様な面や服装のためか、逆に鬼として追われる対象となりました。

ひいらぎいわし 柀 鰯

鰯の生臭さと柀のトゲが、鬼が苦手と言われていることから、魔除けや厄除けとして用いられています。鰯の頭を焼くのは、その臭いと煙で鬼が近づけないと言われているためです。

厄落とし

厄がふりかかりやすいとされる年齢があります。(いずれも数え年)

男性 25 歳・42 歳・61 歳

女性 19 歳・33 歳・37 歳

特に、男性の 42 歳、女性の 33 歳は、大厄と言われ、前年を前厄、該当年を本厄、翌年を後厄と表現します。「神社に参拝する」「人を招いて食事をふるまう」「餅を撒く」などの行いは、厄を落とすと言われ、節分に行う地域が多いです。また、このような行為を厄年の人が担うことで、厄を落とすと言われています。